

せず、満目蕭條たり。翌三日午前零五分、行程約十里にして布古爾ブクウルに達す。布古爾は人家百十五戸を有し、附近田家を合せて千二百五十戸あり、光緒二十九年、輪臺縣リンタイを新設して、其の衙門を此地に置き、縣内約四千戸を管すと云ふ。

三、班超の古蹟と土橋の險

布古爾ブクウル即ち輪臺は漢朝の古蹟にして、班超が三十六王を引見せしは實に此地なりとす。往事茫茫求むるに由なく、唯々九龍樹クイロンシュの故地と其名を遺すのみ。知縣來訪して切に一日の滞在を勸むるも。予は其厚意を謝し、午後五時出發、馬に鞭ちて急行し窮巴呵チヨンパコに到る。蓋し沿途路側に人家散在し、耕地、樹木、川渠多く且つ有名なる土橋の險要あるに因り日没前に出來得る限り地形を觀んと欲したる故なり。之を過れば愈々無一物の沙漠帶とす。四日阿爾巴臺アルバタイを経て、沙堆亂疊の邊を過ぎ行程計約二十里大羅巴タイロバに入る。此地溜水池ある爲め漢人斯くは名づく。人家僅に八戸、土民は此處を楚里阿巴特チエリアバトと稱ふ。五日托和奈トホナイ即ち雅克阿ヤカア（行程約七里）に六日庫車に着す（行程約我十里）。

要するに本道は、天山支脈に近きが故に細流此處彼處に多きも、冬期は水無く、夏